海外チャレンジ支援　プログラム修了報告書

【公表用】

1. 概要

（1）氏名

ふりがな	にわ　いづみ	提出日	2022年　9月　26日
氏名	丹羽　いづみ	報告の対象期間	2022年 8月 2日～ 2022年 8月 26日

（2）在籍校の情報（記入日時点）

学校名	東京外国語大学	学部名	国際社会学部
ふりがな	とうきょうがいこくごだいがく	学 年	2年
学科 専攻・コース 等	東南アジア第2地域 タイ語科		

（3）卒業校　　※当てはまるものに「●」

学校名	小山台高等学校	課程	●	←全日制	卒業年月（西暦）	2021年
				←定時制		3　月

以下当てはまるものに「●」を入力

	←在籍大学の協定・交換留学・学術交流		長期留学
●	←在籍大学の研修プログラム		短期研修
	←在籍大学以外の国内機関主催・斡旋の留学プログラム	主催者・斡旋機関/業者名	多様性 キャリア開発
	←その他・特定のプログラムには参加しない。		

以下当てはまるものすべてに「●」

	←（1）本留学・研修は、在籍大学卒業に必須な留学である（卒業必修要件、必修科目等）
●	←（2）本留学・研修は、在籍大学の単位として認定される留学である
	←（3）上記（1）、（2）のどちらでもない

留学期間	2022年　8月　2日 ～　2022年　8月　26日
留学国／地域	アイルランド／コーク

2. 留学計画の概要 【公表用】

（1）留学計画のテーマ

①アカデミックレベルの語学力習得 ②異文化経験 ③前回の留学で後悔していることの克服

（2）留学の内容（実践活動を含む）

留学計画の概要

英語圏の大学での学習や生活に必要なアカデミックなスキルや知識（レファレンスやパラフレーズ、クリティカルシンキング、テキスト分析、アカデミックワードリストや名詞化など）について学ぶ。
クラスは毎週平日の 9:00～13:00 です。午後は同じクラスの留学生と会話や観光をしたり、学校のアクティビティが開催されていればそれに参加したりしようと考えている。
渡航中はホームステイをするため、ホストファミリーとも積極的にコミュニケーションを取りたいと思う。

留学内容（実際に実施した活動）

毎週平日は 9:00～13:00 に Academic English の授業に出席した。授業は毎週トピックが決まっており、（一週目は brand、二週目は career、三週目は social media、四週目は news）それに沿って授業がすすめられるのに加えて文法事項や Academic English について教わった。ただ先生が教えて生徒が聞くだけという受動的な授業ではなく、生徒同士で相談やディスカッションをする機会が多く設けられていた。平日は授業で扱った文法や語彙、Academic English に関するテクニックに関する練習問題が宿題として課されることが多く、週末は毎週その週のトピックに関するプレゼンテーションの作成が課され、毎週月曜日にクラスでプレゼンテーションを行った。水曜日は放課後に学校が主催する遠足の様なものがあったためそれに参加した。（一週目は Killarney、三週目は Charlesfort と Kinsale（二、四週目は不参加））木曜日は夕方から夜にかけて学校が主催する social event があったためそれに参加した。（一週目は Irish pub、二週目は地元のフットボールの試合の観戦、三週目はピザ（四週目は不参加））水曜、木曜以外の放課後は街を観光したり、ピクニックをしたり、運動をしたりした。土日は街の中心地からは少し離れた場所に遊びに行った。ホームステイではホストマザーと生活時間が合わないことが多かったため顔を合わせることは多くなかったが、夜ご飯や夜ご飯の後に話すことが比較的多かった。

（3）留学の動機と背景

留学をしようと考えた動機

留学をしようと考えたのは①語学力の向上と②異文化の経験と③前回の留学で後悔していることの克服をしたかったからだ。

① 私は語学力に自信がなく英語での会話に強い抵抗感があった。克服するためには英語で会話せざるを得ない状況に自分自身を置くことが必要だと考えた。
② 異文化を経験することで自分にはない考え方や価値観について学ぶことが出来るため、異文化体験は自分の視野を広げると思った。そのため、異文化を経験することは私の人生をより豊かにするために重要だと考えている。
③ 私は以前留学をしたことがあり、後悔していることがあったため再び留学をしたいと思った。後悔していることは主に2つだ。一つ目は、当時の語学力が今以上に低かったために周囲との会話を上手に成立させることが出来なかったことだ。もう少し上手に会話をすることが出来ていたら、現地の文化や人々についてより深く知ることができたように思う。二つ目はクラスメイトなどに積極的に話しかけることが出来なかったことだ。留学という貴重な機会を無駄にしてしまったように感じる。これらの後悔を踏まえて、改善点が浮かび上がったため、その点を克服したかったということも動機の一つである。

3. 留学の成果及び留学経験の活用 【公表用】

（1）留学の成果

※留学計画にそくして留学/研修でどのような成果を得たか。

① 渡航前に強く感じていた英語を話すこと、書くことに対する抵抗感はかなり減少したように思う。
今回のプログラムは留学生を対象としたものであったため、先生とホストファミリーを除いて交流が多かったのはネイティブではなく留学生であったが、全ての学生が自分の英語力に拘わらず自分の言いたいことをどうにか英語で表現しようとしていた。更に、時には表現を模索しつつも何とか英語で会話をしようとする友人の姿から私は感銘を受けた。そうした環境の中で過ごして、内容が完璧である必要はなく、まずは伝えようとする姿勢や態度が重要であるのだと改めて感じることが出来たからだ。

② これまでは適切なニュアンスや自然な表現などに対する感覚がなかったため、とにかく自分の言いたいことを自分の知っている文法や語彙を組み合わせて表現しようと努めてきたが、実際に授業でアカデミックな場面で避けるべき表現とその代替表現について学ぶことが出来たため、場面に応じてどのようなことを意識する必要があるのかを知る事が出来た。ライティングに関しては、場面に合わせて表現を選ぶ基準のようなものを自分の中で設定することが出来た。

（2）自己の成長

※留学/研修を通じて身についた力や留学／研修で得た学び とその理由・背景

① プログラム参加者は大学生だけでなく、社会人の方もおり、国籍も世代も異なる方たちと交流をすることが出来た。年齢がかなり離れている方とも上下関係のない友人として交流出来たのが自分にとっては新鮮で面白かった。普段は一定以上年齢が離れている方とは距離を感じてしまうがそれは自分がそう感じているだけで、実際はバックグラウンドに大きな差異があっても友人関係を気付いていけることを学んだ。

② アイルランドでは晴れる日が少なく、薄暗い日が多く、そして日没は20時や21時頃であり、日本とは天候が大きく異なっていた。これまでは知識として地域によって気候が異なることは知っていたが、今回の留学では日本との大きな差異を実際に経験することができ、視野が広がったように思う。外国との差異を考えるときには文化や国籍などに焦点を当ててしまいがちだったが気候も重要な要素となり得ることを学んだ。

③ 日本で習うようなきれいな発音でない英語に対するリスニング力が向上したように思う。私が今回の留学で交流する機会が多かったのはアイルランド人のホストマザーと留学生の友人達であったが、ホストマザーはアイルランドのなまりが強く、留学生たちは英語を話していてもそれぞれの言語のなまりが強かった。そのため、最初は簡単な表現でも聞き取れないことがあったが、生活するうちに徐々に聞き取れるようになった。留学生の国籍が多様だったため様々なアクセントがあったが、それらのリスニング力が向上したことで教科書的な発音でない英語全般の聞き取りに対する自信も以前よりも持てるようになった。

（3）留学経験・留学の成果の活用

※留学/研修の成果・経験を将来に渡りどのように活用するか。今後の展望。

私の将来の夢は日本企業の製品を海外に広めるとともに日本の市場を広げて日本の経済発展を図ることだ。具体的には日本の生活用品関連の企業で海外での販促拡大に携わり世界の人に日本の製品の良さを通し、生活の質を向上させることで日本と世界を繋ぎたいと思っている。彼らに求められることは如何に商品をその国に合うように売り出していくかを考えることだと思われる。そこでは文化や生活様式、経済状況、宗教的背景などにおいて日本との相違点を分析した上で日本人向けに作られた商品のアレンジ、宣伝、販売方法の変更などを行うことが必要だ。この職種を目指すにあたり、必要なのは言語力、教養、柔軟さ、背景知識だと思われる。そこで、今回の留学で学んだフォーマルな英語やアイルランドでの生活を通して得た異文化経験を活かしたい。更に、非ネイティブ同士で英語の対話をする機会はビジネスの場でも多くあると思われるためその点においては様々な国籍の留学生たちと交流した経験を活かしたい。

4. 受入れ機関の概要 【公表用】

受入機関の名称
アイルランド国立大学コーク校 （University College Cork）
受入機関の所在地
メインオフィス、G36、オーレイリービルディング、ユニバーシティカレッジコーク、コーク、アイルランド (Main Office, G36, O'Rahilly Building, University College Cork, Cork, Ireland)
受入機関の概要及び特徴
アイルランドで最も古い大学の一つで、アイルランドに7つしかない国立大学のうちの一つ。コークの中心部から徒歩で 20 分程で、伝統的な建物が多く使用されたキャンパス。
受入機関の様子
重厚感のあるキャンパスで通うのが楽しかった。購買や食堂があり食事の調達には困らなかった。サマースクールが開講されていた language center には中庭やソファーがあり、休み時間には友達とそこで間食をしながらおしゃべりをよくした。先生方は授業のはじめにアンケートを取って生徒のやりたいことに沿って授業を用意して下さったり、グループワークの際に出来るだけ同じ国出身の人同士で固まらないようにして下さったりと、生徒が出来るだけ英語力を向上できるような配慮をして下さった。

受入機関の様子が分かる写真

5. 留学授業・生活について　【公表用】

（1）授業履歴　（※受講した授業のシラバス等授業内容が分かるもの及び成績表のコピー・提出したレポートを添付すること。）

受講した授業科目名	受講期間	週当たり時間数	単位数	授業の内容 及び授業から得られたこと
Academic English https://www.ucc.ie/en/esol/courses/oss20/ae/	2022年8月2日 ～ 8月26日	20時間		英語圏の大学での学習や生活に必要なアカデミックなスキルや知識について学んだ。具体的にはプレゼン・ディスカッションの方法、パラフレーズ、フォーマル・カジュアルな語彙、レポートを書くときに気を付けることなどを学んだ。課題は平日は授業で習ったことの練習問題などが出て、週末はその週に扱ったテーマに関するプレゼンを作る必要があった。 この授業を通して場面に応じてどのようなことを意識する必要があるのかを知る事ができ、ライティングに関しては、場面に合わせて表現を選ぶ基準のようなものを自分の中で設定することが出来た。 （課題で作ったプレゼンを添付いたします。） UCC¥presentation week8 Izumi Niwa.pptx UCC¥peresentation week9 Izumi Niwa.pptx UCC¥presentation week10.pptx

（2）参加した行事／イベントなど　（※パンフレットなど内容が分かる資料があればコピーを添付のこと。）

行事／イベント名	日時	主催者	行事／イベントの内容 及び得られたこと

（3）留学で得られた学位や資格等　（※証明書などがあればコピーを添付のこと。）

（4）現地での生活　　【公表用】

※宿泊先での生活や特に注意したこと

① 食事は、朝食は家にあるシリアルを食べた。昼食は日によって異なり、友達と学食で食べたり街のレストランやカフェに行ったりパンを買って家で食べたりした。夕食はたまに街のパブやレストランに行くこともあったが基本的には家でホストマザーがつくってくれた。ホストマザーが休みのときは 6 時ごろに食べることが多かったが仕事の日はあらかじめ用意されたものを自分で好きなときに温めて食べることも、仕事から帰ってきた後（9 時、10 時頃）につくってくれることもあった。天気がよくて暖かい日は庭でごはんを食べることもあった。

② 特に注意したことは洗濯だ。夜に洗濯して外に干しておくと朝には朝露で濡れてしまうため途中から部屋干しに変えるまでは洗濯をするときは放課後あまり寄り道をせずに家に帰る必要があった。また、外に干していると小さい虫がよく服に付くので取り込む前によくはたく必要があった。更に、外に干すときは洗濯物をロープのようなものに干したがそれがとても高くて作業が少し大変だった。

③ 洗濯の他に注意が必要だったのがシャワーに入るタイミングだ。ホストの家にドライヤーがなかったため髪の毛を自然乾燥させる時間を確保する必要があるのと、アイルランドは8月でも気温が高くなく特に朝晩は冷えるため、帰宅後は出来るだけ早くシャワーを浴びるようにしていた。

④ ホストファミリーは金銭的収入を目的としているとは感じたが、だからといって冷たかったりするわけではなく、とてもやさしくて温かかいホストだったと感じた。本人もホストをすることを楽しんでいる様子だった。

6. 留学を考えている人へのメッセージ

留学をしてよかったこと、留学前にやっておけばよかったこと、留学を勧める理由/進めない理由など

① 留学をしてよかったことは様々なバックグラウンドを持つ方たちと交流が出来たことだ。私が高校生一年生のときにした一年間のオーストラリアでの留学でももちろん様々な方に出会ったが、今回のプログラムは留学生を対象としたプログラムだったため、出身地や年齢がより幅広かった。全員が全く異なる人生を歩んでいて話を聞くのがとても面白かった。また、私はこれまでオーストラリアとアイルランドにしか行ったことがないため、これ以外の地域に関しては漠然としたイメージしか持っていなかったが実際にそこで暮らす方たちの話を聞いてその地域を身近に感じられるようになった。更に、外国で生活をするという経験が出来たことも留学をしてよかったことの一つだ。高校生のときと比較すると自由度が高く、地域が都会で交通が便利だったため、行きたいと思った場所や買い物に自分一人で行くことができてそこで暮らしている実感がより湧いたのでとても楽しかった。

② 留学前にやっておけばよかったことは、アイルランドの英語に耳を慣らすことである。ホストマザーはなまりが強くて始めの 1，2週間は何と言っているのかが分からないことが度々あった。軽くでもアイルランド人の英語を事前に聞いていたらもう少し早くなれることができてより会話を楽しめたのではないかと考える。

③ 留学をしたいと思ったら出来るときにしておくべきだと思う。コロナのせいで留学を断念した人を何人も知っている。更に、年齢以外にも異なる条件は多々あるが、高校一年生のときにした留学と今回の留学では内容が全く違ったと今回アイルランドに行き、強く思った。周りからのサポートや、自由度、現地でのアクティビティや物事に対する自分の感じ方など。当時の高校生の時だからこそ出来た経験や感じたことなどがあるし、今大学生になったからこそ出来たこともあったと思う。どちらが優れているというわけではないし、更に大人になってからではないとできない事や感じられないことがあると思う。しかし、過去には戻れないのでその時にしか出来ないこともあるということもしっかりと念頭に入れた上で留学の時期を決めて欲しいと強く思う。

7. 留学中の様子が分かる写真 【公表用】

写真	説明
	ホストマザーと一緒にホームステイしていた後輩と庭で夕食を食べている様子。(右がホストマザーで左が後輩、自分は撮影者) アイルランドでは薄暗い日が多いことに加えて8月でも肌寒い日が多かったが、一週間だけ天気も良く気温も高い週があった。その週は天気を楽しむために庭で夕食を食べることが多かった。日本ではそもそも家に庭がないのと夏を楽しむという発想があまりないので新鮮な経験でとても楽しかった。
	放課後にクラスメイトとピザ屋さんでランチを食べている様子。(右が韓国人のクラスメイトで左が自分) 放課後はよく学校の食堂や街のカフェで昼食を食べた。この日は二人とも街に用事があったため街で食べた。この方はもう社会人で、仕事のことや留学をするまでの経緯について教えてくれてとても興味深かった。
	クラスメイトと最終日にお好み焼きパーティーをしている様子。クラスメイトが住んでいた寮のキッチンを借りて日本人のクラスメイトが持ってきた材料を使ってお好み焼きを作ってみんなで食べた。他にもご飯を買ってふりかけで食べたり、日本人のクラスメイトが作ってくれた餅やうどんも食べたりした。韓国人のクラスメイトもトッポギやキンパを用意してくれた。私は韓国人が作る韓国の食べ物を食べることが出来て嬉しかったのはもちろん、日本人以外のクラスメイトも日本の食べ物を食べておいしいと言ってくれたのがとても嬉しかった。みんなで一緒に料理をしたことも楽しかった。
	クラスメイトの最終日に教室で先生と一緒に撮った記念写真。クラスは常に7人程だった。2週目までは私含めて日本人が4人いたが、3週目以降は日本人が2人しかいなくなり、出身地や年齢、職業も人によって大きく異なっており多様性のあるクラスだった。これまでは近い年齢の友人しかいなかったため、年の離れた人と友人として一緒に遊びに行ったり話したりするのはとても楽しかった。

8. 留学に関連した費用 【公表用】

費用調達

調達先	摘要	金額
在籍校奨学金		0円
在籍校以外の奨学金	小山台教育財団海外チャレンジ支援	200,000 円
現地インターン給与		0円
		円
合計		200,000 円

支出経費

費目	予算額	実績	研修参加費に含まれる場合は、●を付ける		摘要
「研修参加費」 ※在籍大学・主催者に一括で支払うもの				←往復航空運賃	
			●	←宿泊費	
			●	←食費	
	241,380 円	241,380 円		←その他	

以下の欄には、上記「研修参加費」に含まれる予算額は記載しない。（二重）

費目		予算	実績	摘要／差異の内容
往復航空運賃		135,200 円	135,200 円	
学費	在籍大学授業料	0 円	0 円	
	現地学校等授業料	0 円	0 円	
	その他	0 円	0 円	
現地滞在費	家賃/宿泊費	0 円	0 円	
	食費	19,000 円	24,870 円	平日の昼食と夜や土日に外食した代金。思っていたよりも物価が高かった。平日の昼以外にも外食する可能性があることを忘れていた。
	交通費	20,000 円	12,166 円	通学と観光にかかる交通費。学生料金で利用できたので安く済んだ。
	通信料	10,000 円	2,800 円	ケータイの通信料。安いプランを見つけることが出来た。
	交際費	30,000 円	4,900 円	観光地への入場料など。予算を考えるときは友達と食べるごはんを交際費としたが、食べ物に使ったお金は全て食費とすることにした。
その他	保険料	15,000 円	8,160 円	大学で加入が義務でけられている保険の料金。
	PCR	0 円	16,960 円	帰国前に行った PCR の料金。PCR の予算を考えるのを忘れていた。
	ホテル	0 円	12,620 円	ダブリンに旅行に行った際に宿泊したホテルの料金。もともと計画はしていなかったがダブリンに行く機会があったので行くことにした。
	その他	0 円	4,620 円	服や日用品の代金。日用品はホストファミリーの家の物が合わなかったので自分で購入した。
合計		470,650 円	463,676 円	現地通貨レート: 140円 / 通貨単位名: ユーロ

※合計欄には「研修参加費」を含む費用の総額を記入のこと。

9. 自由記述　　※ 別添又は本ページに記載する際には、 以下削除した後に記載すること。　【公表用】

①　留学のテーマに関する報告

「有意義な生活を送れた」

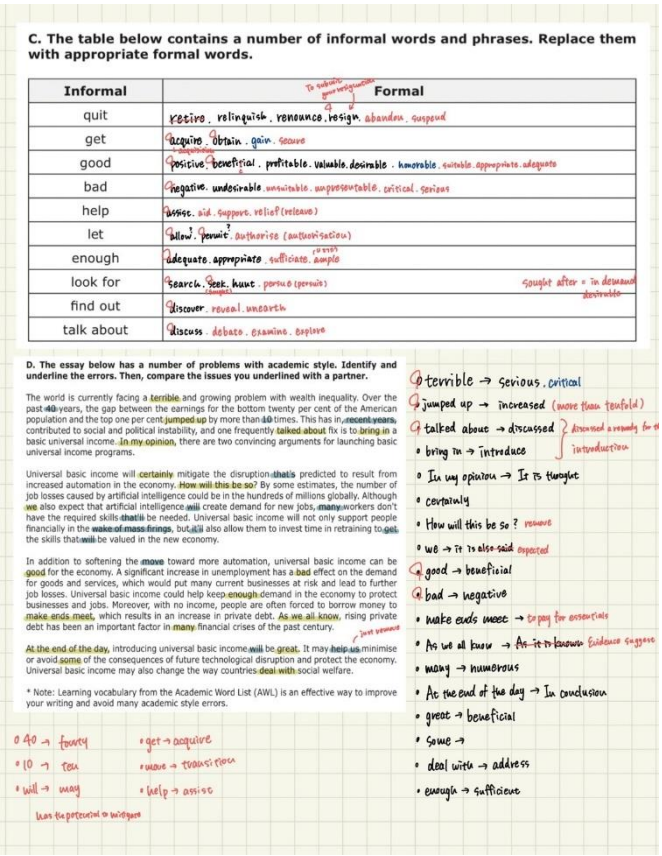
留学のテーマは「語学力を向上し、異文化を経験した上で、以前の留学よりも有意義な留学生活を送ること」であった。これに関して ⓐ語学力 ⓑ異文化経験 ⓒ以前の留学との比較 という3つの観点から報告する。

ⓐ 語学力

いくつかの面で向上したと感じる。それは英語を使うことに対する抵抗感の減少、フォーマルな英語が少し分かるようになったこと、なまりが強い英語の聞き取りが以前よりも出来るようになったことである。

英語を使うことに対する抵抗感の減少は、やはり英語を話さなければ他者とコミュニケーションを取れないという場で生活したから達成したことだと思われる。日本とは異なり英語を話さなければ何も出来ないため、抵抗を感じている場合ではなかったからだ。更に母語ではない英語を話さなければならないのは他の留学生たちも同じで、彼らが一生懸命表現を考えて相手と意思疎通をしようとしている姿をみて、コミュニケーションを取る際にはミスをしない事よりも積極的に相手に伝えようとする姿勢が大事で、それが自分には欠けていた要素であったと痛感した。それにより、ミスをすることはたいしたことではなくとりあえず内容が伝わればいいと考えるようになり、英語を話すことが自分の中で少し気楽なものに変わったことも抵抗感が減少した理由の一つである。

フォーマルな英語は授業を通して少し身に付いたと思う。フォーマルな文章を書く際に従うべきルールを学び、実際にそれに従う練習をすることが出来たため、基本的な形式は身に付いたと思う。更に語彙に関してはこれまではフォーマルかカジュアルかをあまり気にせずに使っていた上に何がフォーマルで何がカジュアルなのかの判断をすることも出来なかったが、ある程度は自分で判断が出来るようになった。


C. The table below contains a number of informal words and phrases. Replace them with appropriate formal words.

Informal	Formal
quit	resive . relinquish . renounce . resign . abandon . suspend
get	acquire . obtain . gain . secure
good	positive . beneficial . profitable . valuable . desirable . favorable . suitable . appropriate . adequate
bad	negative . undesirable . unwelcome . unpresentable . critical . serious
help	assist . aid . support . relief (release)
let	allow . permit . authorise (authorisation)
enough	adequate . appropriate . sufficient . ample
look for	search . seek . hunt . pursue (pursuit)
find out	discover . reveal . unearth
talk about	discuss . debate . examine . explore

D. The essay below has a number of problems with academic style. Identify and underline the errors. Then, compare the issues you underlined with a partner.

The world is currently facing a terrible and growing problem with wealth inequality. Over the past 40 years, the gap between the earnings for the bottom twenty per cent of the American population and the top one per cent jumped up by more than 10 times. This has in recent years, contributed to social and political instability, and one frequently talked about fix is to bring in a basic universal income. In my opinion, there are two convincing arguments for launching basic universal income programs.

Universal basic income will certainly mitigate the disruption that is predicted to result from increased automation in the economy. How will this be so? By some estimates, the number of job losses caused by artificial intelligence could be in the hundreds of millions globally. Although we also expect that artificial intelligence will create demand for new jobs, many workers don't have the required skills that is be needed. Universal basic income will not only support people financially in the wake of mass firings, but it'll also allow them to invest time in retraining to get the skills that will be valued in the new economy.

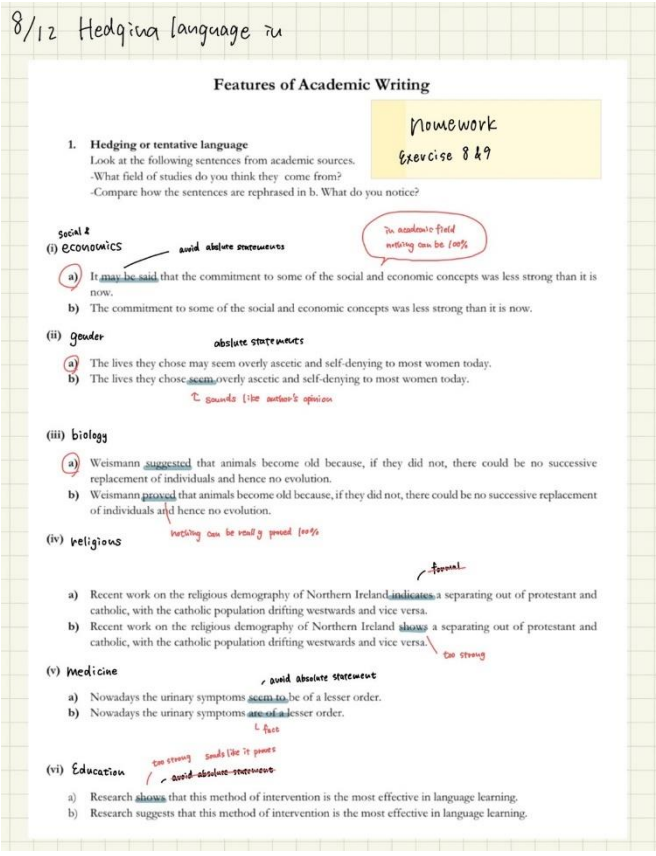
In addition to softening the move toward more automation, universal basic income can be good for the economy. A significant increase in unemployment has a bad effect on the demand for goods and services, which would put many current businesses at risk and lead to further job losses. Universal basic income could help keep enough demand in the economy to protect businesses and jobs. Moreover, with no income, people are often forced to borrow money to make ends meet, which results in an increase in private debt. As we all know, rising private debt has been an important factor in many financial crises of the past century.

At the end of the day, introducing universal basic income will be great. It may help us minimise or avoid some of the consequences of future technological disruption and protect the economy. Universal basic income may also change the way countries deal with social welfare.

* Note: Learning vocabulary from the Academic Word List (AWL) is an effective way to improve your writing and avoid many academic style errors.

terrible → serious, critical
jumped up → increased (more than tenfold)
talked about → discussed
bring in → introduce
In my opinion → It is thought
certainly
How will this be so? remove
we → it is also said expected
good → beneficial
bad → negative
make ends meet → to pay for essentials
As we all know → As it is known Evidence suggests
many → numerous
At the end of the day → In conclusion
great → beneficial
save →
deal with → address
enough → sufficient

40 → forty
10 → ten
will → may
get → acquire
move → transition
help → assist


8/12 Hedging language in

Features of Academic Writing

Homework
Exercise 8 & 9

1. **Hedging or tentative language**
Look at the following sentences from academic sources.
-What field of studies do you think they come from?
-Compare how the sentences are rephrased in b. What do you notice?

(i) economics — social s
avoid absolute statements
In academic field nothing can be 100%
a) It may be said that the commitment to some of the social and economic concepts was less strong than it is now.
b) The commitment to some of the social and economic concepts was less strong than it is now.

(ii) gender — obslute statements
a) The lives they chose may seem overly ascetic and self-denying to most women today.
b) The lives they chose seem overly ascetic and self-denying to most women today.
↳ Sounds like author's opinion

(iii) biology
a) Weismann suggested that animals become old because, if they did not, there could be no successive replacement of individuals and hence no evolution.
b) Weismann proved that animals become old because, if they did not, there could be no successive replacement of individuals and hence no evolution.
nothing can be really proved 100%

(iv) religious
formal
a) Recent work on the religious demography of Northern Ireland indicates a separating out of protestant and catholic, with the catholic population drifting westwards and vice versa.
b) Recent work on the religious demography of Northern Ireland shows a separating out of protestant and catholic, with the catholic population drifting westwards and vice versa.
too strong

(v) medicine
avoid absolute statement
a) Nowadays the urinary symptoms seem to be of a lesser order.
b) Nowadays the urinary symptoms are of a lesser order.
↳ fact

(vi) Education
too strong
Sounds like it proves
avoid absolute statements
a) Research shows that this method of intervention is the most effective in language learning.
b) Research suggests that this method of intervention is the most effective in language learning.

授業のノートの写真
実際に練習問題などで自分で考える練習が出来たので知識を身に付けやすかった

なまりが強い英語はホストマザーと留学生の友人達との会話を通して徐々に聞き取れるようになった。ホストマザーと留学生はそれぞれアイルランドとそれぞれの母国のなまりが強かったが3週目からは少しずつ聞き取れるようになってきたことを実感できた。特に成長を強く実感できたのは帰りにアブダビ（アラブ首長国連邦）でトランジットをしたときだ。行きもアブダビでトランジットをしたが、そのときはアナウンスで英語が流れていても何を言っているのかを聞き取ることがあまり出来なかった。しかし留学中にサウジアラビア出身の友人ができ、彼女とはいつも休み時間におしゃべりをしていたため、帰りはアブダビでのアナウンスの内容をほとんど聞き取ることが出来た。

ⓑ異文化経験

ホームステイをしていたため、アイルランドの家庭料理やアイルランドの住まいでの生活などを体験することが出来た。更に、留学生たちとの交流を通して様々な国の文化について学ぶことが出来た。特に印象に残っているのはコロンビア人の友達からサルサのダンスを教わったこととサウジアラビア人の友人が結婚するまでの過程を聞いたことである。アイルランドに関してだけでなく、様々な地域の国のことについて知ることが出来たためこの世界の多様性を改めて実感することが出来た。

ⓒ以前の留学との比較

私は以前の留学に関して、語学力が低かったために会話を上手に出来なかったことと人に積極的に話しかけられなかったことを後悔しており、これらを克服することも今回の留学の大きな目的の一つであった。語学力については現在は日常会話程度なら英語でやりとりをすることが出来るため今回の留学ではそこまで大きな問題に直面することはなかった。友人や先生の話もほとんど理解することが出来たため前回の留学とは異なり人との会話から多くのことを学ぶことが出来たように感じる。

積極的に話しかけることに関しては前回の留学よりかは出来たと感じる。人に話しかけるかどうかを悩んだときは必ず話しかけるようにした。クラスメイトにも授業が始まる前や休み時間に出来るだけ自分から話しかけるようにした。その結果としてクラスメイトとはとても仲良くなることができた。前回の留学では留学生は学年で二人しかおらず、その他の生徒はほとんどが中学一年生の頃から同じ学校に通うネイティブたちであり、留学生しかいない上に半分が日本人だった今回の留学とは他の生徒に話しかける心理的なハードルの高さがかなり違ったため、自分の消極性を完全に克服できたとは言い難いが、今回は今回で自分なりに頑張って積極的になろうとしたので自分から英語で他者に話しかけることについては少し自信がついた。更にこれが英語で話すことに対する抵抗感が減ったことの要因の一つになったとも感じるので、今回の留学では積極性の向上という観点から考えると得た機会を自分なりに有意義に使えたと感じる。

今振り返ってみると私が自分に自信を持って英語を話すことが出来ない大きな要因は、前回の留学で上手に会話が出来なかったこと、自分から積極的に人とコミュニケーションを取れなかったことが自分のコンプレックスになっていたことにあったのではないかと考える。しかし、今回の留学では自分がこの二つの点に関して成長できたと感じたのでコンプレックスはかなり解消でき、以前よりも自信を持って英語を話せるようになったと感じる。そのため、本当に自分にとって意味のある留学が出来たように思う。

②　留学を終えて、自分自身の成長や学び（実感したエピソードを含め）

「自分が思っている以上に制限も壁もない　」

今回の留学を通して学んだことは国籍や年齢、宗教に関係なく誰もが誰もと友達になれるということと何歳からでも挑戦できるということだ。

国籍や年齢、宗教に関係なく誰とでも友達になれるというのは学校に通って様々な友人が出来て感じた。私は普段はそもそも年齢が大きく離れている人と交流する機会があまりない上に、ある一定以上年齢が離れている人には距離を感じてしまう。更には日本では年上の人は目上の人という風に考えられているので少ししか年齢差がなくても友人関係を築くのは難しく感じる。しかしアイルランドでは様々な国から来た様々な世代の人と同じ教室で授業を受け、友人関係を築くことが出来た。私と年齢差がある方も普通の友達のように接してくれた。仕事を休職して来ていた韓国人の友人も、来る前は若い子と友達になれるかどうかが不安だったけれどたくさん友達が出来て良かったと言っていて、年齢差によって感じる距離はただ私たちがあるように感じているだけで本当は距離も壁もないのだと気が付いた。宗教に関しては初めてイスラム教の友人が出来た。私は強く信仰している宗教はないのでイスラム教に関わらず何かを信仰している人にとってその宗教がどれほど重大なものなのかが分からないため、何に気遣う必要があって何は気遣う必要がないのかが分からない。それを彼女に伝えたら、彼女は自分はイスラム教を信仰していてその教えを守るけど、他の人はそれを守らなくてもそれについてどう考えていても気にしないと教えてくれた。もちろん人によって宗派や信仰の仕方、考え方は異なると思うのでみんなが彼女と同じ考えを持っているわけではないと思うが、これを聞いて私は宗教が違うからといって線引きのようなものをする必要はないのだと分かった。

サウジアラビア出身のイスラム教の友達
年齢は19歳で既婚。
宗教上の理由で食べられないものが多くよくベジタリアンの食べ物を食べていた。
お祈りをするため、放課後に遊ぶときは一度家に帰ってから再集合をすることが多かった。

何歳からでも挑戦が出来るというのは自分よりも年齢が上の友人を見ていて感じた。プログラム参加者のほとんどがサマースクールの間のみの参加であったが、中には一年や半年といった長期間滞在する予定の人もいた。私の友人にも三人長期滞在する予定の人がいた。そのうちの二人はもう働いていて一年間休職をして来たと話してくれた。二人とも英語のスピーキングはあまり得意ではなかったがいつも自分から積極的に色んな人に話しかけていて私も刺激を与えられた。一年間留学をするというのはとても大きな決断である上に、働き始めるとそのハードルは学生のときよりも上がるように思われる。私は長期留学をするのは大学在学中しかチャンスがなく、卒業後はもう機会がないと考えていた。しかし二人が休職してアイルランドに来たという事実を知り、二人がいつも一生懸命に英語を話している姿を見て本当にやりたいことであれば強い志があれば実現することが出来るのではないかと考えるようになった。少なくとも、自分で制限を作ったり壁を作ったりしてやる前から諦めてしまうことが一番もったいないことであると気が付いた。二人の他にも短期で来ている社会人の方はたくさんいて、自分が思っている以上に年齢の制限はないのだと分かった。

左後ろの人と一番右の人が一年間滞在する予定の二人の友達。
左後ろの人がコロンビア出身で経済学の教授でスペインとコロンビアの大学で経済学を教えていたと言っていた。クラスは違ったが放課後によく一緒にご飯を食べたりした。
一番右の人が韓国出身で公務員として働いていると言っていた。韓国の公務員には年に数人、支援を受けながら留学をする制度があるそうだが語学力が足りなくてその制度を使えなかったため、自分で全て用意してアイルランドに来たと教えてくれた。